動きの変容に注目した器械運動の実践

―中学１年生マット運動の実践より―

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　造形・創造科学系（保健体育）
氏　名　谷口　泰史

本研究は，体育科では，「できる・できない」の２観点で捉える指導観を問題とした。これについて，体育授業を通して出現した動きの変容に注目し，それらの事例を多観点で検討することを目的とした。

本実践では，「器械運動」（マット運動）の授業を中学１年生の学級で行った。この状況を検討するために，動画による動きの変容とプリントの記述を対象に分析した。

実践の中から，前方倒立回転跳びなど生徒が取り組んだ技の形態・リズムの変容に着目した。その結果，習熟の特徴を見出した。また，プリントからは，技能ポイントなど自己の課題を発見する記述が見られた。他には，「またやりたい」「他の技にも挑戦したい」などの記述があり，興味関心が高まった学習になったと考えられる。その一方で，「自分ができる技だけでしか作れない」「演技でやる技を優先して練習したい。」などの記述も見られた。自己の課題発見・解決ができていた授業となっていたが，発表会が近づくにつれ，発表会のための課題解決へと変容した。